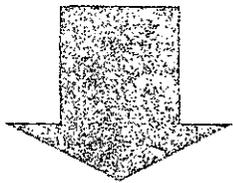


5. 認知症ケアの人材育成の課題

5-1) 諦め感や変えていく意欲のない受講者の抵抗

「そんなこときれいごとよー。実際は・・・」



特に現場経験のある人

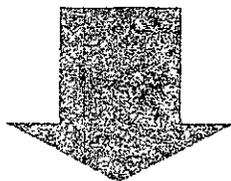
今まで頑張ってきたという自負の強い人

対応策

- ① 認知症の人を利用者本位で支え、
本人の底力を引き出して、その人らしい姿を
蘇らせた実例を示す。
映像や先進例の紹介記事などが効果的
→映像教材 参照
- ② 実際に現場を変える取り組みをしている
実践者に報告をしてもらう。
それらの人と受講者がフランクに対話する時間を作る。

5-2)気づく、考え、自分で作ることが苦手な受講者

聴く一方の講義では育たない



対応策

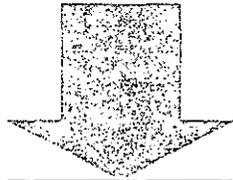
- ① 参加型の演習
- ② 本人と共に短時間でもすごす実習
- ③ 講師との対話・ノート

＊本人のどんな言葉でも認め前向きに活かす
伝えること、考えることの
喜び、楽しみを体験してもらう

＊素朴な声や記述に本人の突破口

5-3)時間数が限られている

詰め込み教育をしても、認知症ケアの実践力は育たない。



対応策

- ① **まずは、利用者本位の視点作りを確実に。**
この基盤ができれば、後は「自然に」育ちやすい
- ② **事前学習をしてきてもらう**
本人の手記等を事前に読んでから受講してもらう
- ③ **少しずつ、段階的に研修を組む**
認知症ケアは実は難しいことではなくケアの基本の基
○初任者の基礎的な単元から織り込んでいく
○ステップアップコースは必要

5-4)新しい認知症ケアを伝達、 ファシリテーター役をできる講師の不足

5-5)新しい認知症ケアを体験できる実習施設が不足

対応策

- ① 地域で確実に増えてきている認知症ケアの推進役とネットワークを作り、いい講師、いい実習施設を開拓する
* 地元の現場の人の集まりに積極的に参加し
ネットワークを広げる
ケア関係組織主催の会、家族会、本人の会ほか
→テキストや研究者の先をいっている
- ② 認知症ケアに完璧はない
現場の育ち始めた人と、いい講師、いい施設を
一緒に作っていく

* 認知症介護研究・研修東京センターの人材ネットワークとの連動を

これからの認知症ケアの人材育成に向けた参考教材 利用者本位の支援、地域包括ケアにむけて

- 1 痴呆の人の思い、家族の思い、中央法規、2004**
- 2 私は私になっていく、かもがわクリエイツ、2004**
- 3 認知症の人のためのケアマネジメント
センター方式の使い方・活かし方、中央法規、2005**
- 4 センター方式シートパック(解説付)、認知症介護研究・研修
東京センター**
- 5 新しい認知症ケア、中央法規、2004
※ポイント10項目を簡略に説明。小冊子。**
- 6 認知症の人のための地域包括ケア、日本看護協会出版会、
2006. 3月**

認知症ケアの人材育成等に関するホームページ

- 1 DCネット <http://www.dcnet.gr.jp>
*認知症介護研究・研修3センターのホームページ
- 2 いつどこネット <http://www.itsu-doko.net>
*センター方式に関するホームページ
*センター方式シートを無料でダウンロードできます。
- 3 だいじょうぶネット <http://www.dai-jobu.net>
*本人ネットワークを支援するためのホームページ
- 4 評価でGOネット <http://www.hyouka-de-go.net>
*グループホームの外部評価を活かして、ケアサービスの質の確保・向上を図るための情報発信のホームページ